

あぐり 最前線



土壌分析をしましょう！

—コスト低減に向けて—

JAでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採り、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ、等)・果樹(ミカン、カキ、等)など品目を記入して、5月19日(金)までに各営農センターへ「持参ください。分析結果は6月中旬頃に」連絡いたします。

市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、**(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)**を表しています。農業は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。
例)表記が(14日/2回)の場合:収穫14日前までに2回使用可能

水稲



●育苗

○平置き育苗(太陽シート・ピアレスフィルムなど)
育苗箱の下に水がたまらないようにしましょう。降雨後、シート上に水が溜まっている場合は除去してください。
○積み重ね出芽(段積み)
覆土後すぐに積み込まず、覆土表面に水が上がってから積みましょう。
○無加温棚育苗
徒長苗にならないように、播種後5日程度で上下の苗を入れ替えてください。発芽状態を確認しましょう(病害、発芽不良の早期発見)。

●緑化・硬化

平置き育苗では最初から緑化しているの、8cm程度伸びたところで被覆資材を外します。棚育苗では、10cm程度で苗床に移し、日焼け防止対策で寒冷紗をかけて緑化するまで育苗してください。

ポイント

- ① 棚出しや被覆資材をとる時間は必ず、夕方または曇天で日差しが弱いときに行いましょう。
 - ② 棚から出したときに種もみが露出している場合は、灌水を行い落ち着かせてから覆土で補いましょう。
 - ③ 棚から苗床に出した場合、寒冷紗などの弱光下で1日程度ならし、緑化させましょう。
 - ④ 午前中の灌水はしっかりと、夕方は箱の外側を中心に灌水しましょう。
- 病害虫防除
- 苗立枯病
 - ▽ 育苗中
 - ・ タチガレン(液) 500倍(は種時及び発芽後/2回) (ピシウム菌)
- または

・ダコニール1000 1000倍(は種14日後まで/2回) (リゾーブス菌)
を1箱あたり500ml灌注してください。
○リゾーブス菌

種もみの周囲あるいは床土面に白い綿状のカビが生え、最終的に育苗箱全面を覆います。種もみの発芽は悪く、発芽しても不揃いになり、症状が激しいと枯死します。

原因と対策

- ① 土壌や育苗資材の汚染が第1次伝染源となるので、育苗資材は洗浄してから使用しましょう。
 - ② 厚播きや育苗前半の過度な灌水は発生を助長するので避けましょう。
 - ③ 出芽時の高温、育苗初期の低温は発生を助長するので、段積みや無加温棚育苗の場合、温度管理に注意しましょう。
- ピシウム菌
- 苗が2、3葉期に急に萎凋し、のちに枯死し、坪枯れ症状を示します。リゾーブス菌のようなカビは生じません。

原因と対策

① 緑化期以降の低温と土壌の過湿による「ムレ苗」が原因です。天候に合わせてた灌水を心掛け、発生した場合は薬剤による防除を行い、土壌を乾燥気味に管理しましょう。

② 培土の細粒化も原因の一つとなります。育苗後半まで土の粒が維持できる培土を使用しましょう。

* 団粒構造がしっかりしている「宇部培土2号」がおすすです。

◎ 腐葉枯病

腐葉枯病ウイルスを体内に保持したヒ

メトビウンカが、稲の茎葉を吸汁して感染させる病気です。育苗期からの防除を徹底し、予防することが大切です。

▽ 育苗中

- ・ エルサン(乳) 200倍(7日/2回)
- ▽ 田植え3日前/当日
- ・ スクラム箱粒剤(50g/箱)
- ・ 田植え直前よりも、前日/3日前に処理すると、薬剤が苗に確実に吸収され、より効果が安定します。

◎ ジャンボタニシ

- ・ ジャンボタニシくん 1~2kg/10a (60日前/2回)
- 田植え直後/本田初期に処理します。
- より高い効果を得るために、水田全体に均一に散布しましょう。

● 除草(一発処理)

● **ポイント**
① 散布後1週間は止め水管理とし、水持ちの悪い圃場ではフロアブル剤とパツク剤は効果が安定しないため、粒剤を使用しましょう。

② 水持ちの悪い圃場で水が切れそうになった場合は、水尻はしっかりと閉めたまま、水口から少しずつ水を入れて水深を保ちます。

《粒剤》

- ・ アールタイプ1キ口(粒) 1kg/10a (田植え直後/ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで)

* 田植え同時処理も可能です。

《フロアブル剤》

- ・ サラブレッドKA1(フ) 500ml/10a (田植え直後/ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで)

田植機レンタルサービス 申し込み受付中!!

レンタル利用対象者

JAわかやまの組合員

利用時間

利用時間の単位は1日(8:30~17:00)です。

※上記利用時間以外はご相談ください。

お願い

レンタル農機は組合員皆さまの資産です。適正な使用を心掛けてください。



田植機レンタル料金表(税込)

	平日	土・日・祝日	洗浄料
乗用田植機 (4条植え 施肥機なし)	27,000円	32,000円	1,000円

田植機レンタルサービスの詳しい利用方法・利用規約については、お気軽にお問い合わせください。

- 西部営農センター ☎480-3450
- 南部営農センター ☎444-0390
- 中央営農センター ☎471-0102
- 東部営農センター ☎488-3190
- 北部営農センター ☎464-4560

植後30日まで

《バック剤》

- ・ エンペラージャンボ 25g×10個/10a (田植え直後/ノビエ3葉期ただし移植後30日まで)

キャベツ



気温が上がるにつれ結球するのが早く、裂球や腐りが増え、害虫も多くなります。病害虫防除は早めに行いましょう。

● 病害虫防除

- ▽ 5月上旬 ※SE
- ・ アクセル(フ) 100倍(前日/3回)
- ・ ウララDF 200倍(前日/2回)

ハクサイ



収穫が遅れないように十分注意して、適期収穫に努めましょう。春ハクサイは、収穫適期が短い為、収穫遅れに注意してください。遅れると芯上がり・石灰欠乏症(アンコ)が発生します。乾燥が続く場合は灌水してください。

ブロッコリー



乾燥が続く場合は、適宜、畦間灌水してください。また花蕾の色が早くなりますので適期収穫を心掛けましょう。

● 病害虫防除

- ▽ 5月上旬 ※ピクセル
- ・ アクセル(フ) 100倍(前日/2回)
- ・ ウララDF 200倍(前日/2回)

新ショウガ



● 換気

ハウス内がムレすぎると紋枯病などが発生しやすくなります。ハウス内の気温が35℃以上で長時間経過しないよう十分換気してください。

● 灌水

気温が高くなるにつれ、換気や灌水量を多くしなければなりません。灌水過多で高温管理すると塊茎の肌が著しく悪くなる場合があります。

また、灌水が不均一になると生育の不揃いや葉のねじれが発生しやすくなりますので、十分に注意してください。

● 病害虫防除

- アワノメイガ
- ・ パダンSG(溶) 150倍(7日/5回)
- ・ フェニックス(顆) 200~400倍(前日/2回)
- ◎ 紋枯病
- ・ バリダシン(液5) 800倍(14日/4回)
- ・ モンカット(フ40) 200倍(3日/5回)

◎ 根茎腐敗病

病気の進行が著しく速いため、被害株は早期に除去し、左記の薬剤を散布してください。また20日置きにローテーション散布するとより効果的です。

- ・ ランマン(フ) 500~1000倍(2~3回/㎡)
- ・ ユニフォーム(粒) 18kg/10a(収穫30日前まで/3回) *生育期土壌表面散布 *土壌灌漑

・オラクル(類) 200倍(1〜3ℓ/㎡)
(生育期ただし収穫3日前まで/3回)
*高温乾燥時の薬剤散布は、葉害の恐れがあるので注意してください。

ピーマン



●**着果**
樹の生育につれて、着果位置は生長点の近くに上がってくる状態が良いものです。開花位置は、主枝の先端から5cm前後の3節目を基準とします。果実の着果位置は、5〜6節目に肥大果があれば生育のバランスがとれ、着果周期は早くなります。開花位置が低い場合は糸を緩め、樹勢を調整してください。

●**病害虫防除**
●うどんこ病

発生初期であれば、治療効果のある左記の薬剤を散布しましょう。

- ・シグナムWDG 200倍(前日/2回)
- ・パンチヨTF(類) 200倍(前日/2回)
- ・パレード(F) 200〜400倍(前日/3回)
- ◎アザミウマ類
- ・ディアナスC 250〜500倍(前日/2回)
- ・プレオ(F) 1000倍(前日/2回)

シシトウ



気温が上昇するにつれ、着花数が増え果実も短期間で肥大します。収穫適期を逃さないように注意してください。

●**灌水**
乾燥が続くと果実の肥大や着花がとも

に悪くなります。灌水は軽く土を握って、2力所ぐらい亀裂が生じる程度の分量で管理してください。

●**病害虫防除**
◎アブラムシ類・アザミウマ類
発生が認められたら、左記の剤を散布しましょう。

- ・アドマイヤー(類) 500〜1000倍(前日)
- (※ただし露地栽培については開花期終了後/2回)

青ネギ



●**播種**
均一にばら播きするか、またはすじ播きします。播種後うすく覆土し、樹皮堆肥などをまいて乾燥を防ぎます。

●**定植**
苗の大きさを揃え1株あたり8〜13本を浅植し、十分灌水して活着を良くしてください。

- 病害虫防除**
◎ハモグリバエ類・アザミウマ類
- ・スタークル(類) 50倍 0.5ℓ/箱灌
- (注)(定植前日〜定植時/1回)

ニンジン



本葉が4〜7枚を過ぎると肥大が盛んになります。この時期に追肥と、乾燥が続くようであれば適期灌水してください。間引き時期は本葉6〜7枚までに終了してください。

●**灌水**

生育期間中、土壤の乾湿の差が大きくなるとニンジンが縦にはじけるので、必要に応じて灌水しましょう。

●**病害虫防除**
初期発生にボイントをおきましょう。

- ◎黒葉枯病・斑点病
- ・ベルコート(F) 1000倍(14日/5回)
- ※黒葉枯病発生初期
- ・ポリオキシシナル(水) 500倍(7日/5回)
- ◎ヨトウムシ
- ・フェニックス(類) 200〜400倍(前日/2回)

ウメ



●**灌水**
発芽期から果実肥大期の乾燥は、果実肥大や新梢の伸長を抑制するため、適宜灌水を行うことが重要です。特に5月以降、果実肥大が最盛期に入る時期に土壌水分が不足すると生育が悪くなり、生理落果の多発や果実肥大に悪影響を及ぼします。晴天が7〜10日続いた場合は、1樹あたり100ℓ程度の灌水を行い、乾燥しやすい園地では5〜7日間隔で、早め早めの灌水に努めましょう。果実の肥大期に水分が不足すると、落果が助長されます。

●**病害虫防除**
▽5月上・中旬

- ◎黒星病・すす斑病
- ・スコア(類) 300倍(前日/3回)
- ◎カメムシ類
- ・スタークル(類) 200倍(前日/3回)

▽5月下旬〜収穫前
◎黒星病・すす斑病

モモ



●**摘果**
摘果は一般に予備摘果、仕上げ摘果および見直し摘果(袋かけ時)の3回です。

●**仕上げ摘果**
満開後40〜45日頃から始まります。残す果実は、縦長で果形の良いものとし、小玉果や片肉果、病害虫被害果、双胚果、変形果(先端が曲がっている)などを摘果し、縫合線を挟んで左右の比率が6対4の正常果を残します。

着果の目安は短果枝3本に1果、長果枝には1果とします。

●**病害虫防除**
昨年は、台風の影響でせん孔細菌病の越冬菌量が多いと思われます。袋かけ前の防除となりますので、特に丁寧な散布してください。

- ▽5月上旬
- ◎せん孔細菌病
- ・マイコシールド 1500倍(21日前/5回)
- ◎黒星病・灰星病
- ・オーシャイン(水) 200倍(前日/3回)
- ◎シンクイムシ類・アブラムシ類
- ・モスピラン(類) 200倍(前日/3回)
- ▽5月中旬
- ◎せん孔細菌病

- ・マイコシールド 1500倍(21日前/5回)
- ◎黒星病
- ・ジマンダイセン(水) 600倍(前日/3回)
- ◎マイコシールド 1500倍(21日前/5回)
- または
- ・ペンコゼブ(水) 600倍(21日/3回)
- ▽5月下旬(袋かけ前)
- ◎せん孔細菌病

イチジク



切り戻した前年の結果枝の基部付近からたくさんの新芽が発生するので、横芽または下芽を残し、その他を除去します。芽かきは、芽が3〜4葉になったころを目安に、片側40cmに1芽を残すように行ってください。

●**病害虫防除**
▽5月上旬以降

- ◎アザミウマ類
耕種的防除として、必ずマルチの敷設及び除草を行いましょう。
- ▽5月10日頃
- ◎そうか病
- ・キノンドー(F) 600倍(60日/3回)
- ◎アザミウマ類
・アデオン(乳) 2000倍(前日/2回)

- *展着剤スカッシュ 2000倍加用
- ▽5月25日頃
- ◎疫病
- ・Zボルドー 1000倍(適時)
- ◎アザミウマ類
- ・ジェイエース(溶) 2000倍(45日/1回)
- ◎株枯病
- *展着剤スカッシュ 2000倍加用

本病に感染したイチジクは、7〜8月頃より新梢が日中萎れ、進行すると下葉が黄化・枯死します。成木の主幹地際部は、やや凹んだ病斑が観察されることが多く、表皮下は黒褐色に変色しています(土壤中の糸状菌が伝染源となり、風雨による傷口や害虫の食害痕から感染します)。

・オンリーワン(F) 2000倍(前日/3回)
*1樹あたり5〜10ℓ灌水
*株元から約30cmまでの土壌表面に、十分浸み込むように灌水しましょう。

◎アキノキクイムシ・カミキリムシ類
予防には、ガットサイドSを主幹の地際部まで塗布します。枯れ枝は、カミキリムシ類の発生源となるので伐採・焼却しましょう。また樹勢の弱った樹が被害をうけやすいので肥培管理にも気を付け樹を強く保つことが予防につながります。

カキ



早期の摘蕾・摘花を徹底し、果実肥大を促進させましょう。品種別に摘蕾を始める順番は、平核無↓刀根↓富有です。

雨が多くなる前の5月上中旬に防除を徹底しましょう。病原菌は、葉裏の気孔から侵入し感染しますので、葉裏にも薬剤がかかるように丁寧に行いましょう。

●**摘果**
柿の果実は、へた部の奇形・病害虫被害により肥大に影響がでます。摘蕾・摘果時には、これらの無い蕾・果実を残すようにしてください。

●**病害虫防除**
▽開花直前 ※刀根早生

- ◎落葉病・炭そ病
- 雨が多くなる前の5月上中旬に防除を徹底しましょう。
- ・エムダイファー(水) 600倍(45日/2回)

●**摘果**
柿の果実は、へた部の奇形・病害虫被害により肥大に影響がでます。摘蕾・摘果時には、これらの無い蕾・果実を残すようにしてください。

- ◎カキクダアザミウマ
開花期に加害し、果実が肥大してから被害痕が現れます。
- ・ジェイエース(溶) 1500倍(45日/2回)
- ◎ハダニ類
- 雨が少なく乾燥が続く場合に多発します。
- ・ダニトロン(F) 1000倍(7日/1回)
- ▽5月上旬(新梢伸長期) ※富有柿
- ◎フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガ
- ・トクチオン(水) 800倍(75日/2回)
- ◎うどんこ病
- ・サルファーゾル 500倍(適時)
- ▽5月中旬(開花直前)
- ◎落葉病・炭そ病
- ・エムダイファー(水) 600倍(45日前/2回)
- ◎カキクダアザミウマ
- ・ジェイエース(溶) 1500倍(45日前/2回)

*開花当日に受粉すると種子が入りやすくなります。開花期間中は、ミツバチなどの訪花昆虫に影響のないように十分注意し、人工授粉する樹以外は、薬剤散布はしないでください。

ミカン



●**病害虫防除**
▽5月上旬〜下旬

- ◎ケシキスイ類・アザミウマ類
- ・エクシレルSE 500倍(前日/3回)
- ◎灰色カビ病・黒星病・そうか病
落弁期の花弁に灰色のカビを生じ、落花を助長します。発病した花弁が春葉に付着すると、褐色同心円状の病斑が形成され落葉し、多発すると着果数が減少します。
- ・ナティボ(F) 1500倍(前日/3回)
- ◎かいう病
- ・ICボルドー66D 80倍(制限なし)
- ・クレフノン 200倍(加用)
- *発病が多い園では、展着剤アピオンE 1000倍を加用してください。
- 灌水**
5〜6月は根の伸長時期なので、乾燥させないことが大切です。また、水分不足はホウ素欠乏症や品質(肥大・果皮障害)に悪影響を及ぼすことがあるため、特に今年定植した苗木は、乾燥させないよう注意が必要です。

被覆肥料のプラスチック殻を 水田から流出させないようにしましょう！

被覆肥料はプラスチック等でコーティングしているため、肥効調節型肥料となります。施肥回数減による軽労化、施肥量の削減などの利点がある一方、肥料成分が溶出した後、河川や海への被膜殻の流出が問題となっています。
【被膜殻は、光（紫外線）により崩壊し、微生物の働きで分解されますが、分解には5年以上の時間がかかります！】



移植時期 代かきによって被覆殻が地表に現れ、落水時に流れ出てしまいます。

殻を流さないために



浅水で代かき

対策1 浅水代かき

- **均平化** 入水前に田面をできるだけ均平にしましょう。
- **畦畔管理** あぜが崩れていないか確認しましょう。排水溝には止水板を設置しましょう。
- **入水量** 大部分の地表が見える程度で浅めに入水しましょう。
- **落水** 移植前の急激な落水は避け、水位を調整しましょう。



被覆肥料の殻

対策2 ネットの使用 (落水をする場合の対応策です)

(1) 材料を揃える

- 材料一覧例**
- ① 玉ねぎネット (網目は2ミリ以下)
 - ② BBQ用の網
 - ③ クリップ
 - ④ 園芸用支柱



(2) 水尻に設置



2段構えで詰りを防ぐ



被覆肥料の殻の流出防止対策動画

YouTubeで対策動画を公開しています

令和5年度 プラグ苗大口購入奨励措置のお知らせ

農家の経営規模拡大に向けて生産コストの低減を図るため、奨励措置を以下の通り実施します。

対象品種	野菜プラグ苗 (キャベツ・ハクサイ・ブロッコリー・サニーレタス・ロメインレタス)		
対象者	共販部会員	対象期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
奨励内容	(1) 500 トレー以上購入…購入金額の5% (2) 300 トレー以上購入…購入金額の4% (3) 150 トレー以上購入…購入金額の3%		

令和4年度実績 47件・計1,260,140円(奨励金総額)
(対象期間:令和4年4月1日～令和5年3月31日)

5月11日(木)に口座へ入金させていただきます。

農作業を安全に！ 5～7月は特に注意

和歌山県内の農作業事故の実態

県内の農作業事故は
平成29～令和3年度の5年間で**261件発生**

- ★約6割が収穫期に発生
5月～6月(うめ)と、11月～12月(みかん)で146件発生していますので、注意してください。
- ★事故原因は「墜落・転落」と「転倒」
原因の7割以上が、脚立・樹木・傾斜地などからの墜落・転落や、作業中の転倒です。
傾斜地の多い果樹園での作業は、特に注意が必要です。

事故防止のポイント

- 疲れがたまりやすい農繁期は、ちょっとした「焦り」や「気のゆるみ」が事故につながります。**
- 作業計画はゆとりをもって 事前に準備と確認を
 - 作業は慎重に 障害物は取り除く。機械を整備。
 - ・収穫時は必ず手袋を着用。
 - ・脚立を使用する時は、足場を確認、チェーンをかける。
 - ・段差や斜面では、特にゆっくり移動。

令和5年度(お知らせ)

鳥獣害の対策を される方へ

(鳥獣害対策支援事業)

鳥獣害の対策としての電柵、鉄柵、網等、侵入を防ぐ資材を購入する費用(税抜)の30%以内(助成総額以内)を助成します。

※令和5年度に新たに購入し設置するもの
(令和5年4月1日～令和6年1月31日までに購入したのもの)に限ります。

助成させていただく際には、条件等がございます。
詳しくは営農生活部または最寄りの営農センターまでお問い合わせください。

令和4年度実績

34件・計461,500円(助成金総額)
(対象期間:令和4年4月1日～令和5年1月31日)